

令和4年度 高校教育とPTA専門委員会研修会

実施期日：令和4年11月15日（火）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：(一財)埼玉県高等学校安全振興会

目 次

次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 ページ

発表校資料

(1) 埼玉県立春日部東高等学校PTA・・・・・・・・・・・・ 3 ページ

(2) 埼玉県立新座総合技術高等学校PTA・・・・・・・・・・・・ 7 ページ

(3) 埼玉県立与野高等学校PTA・・・・・・・・・・・・ 11 ページ

(4) 埼玉県立児玉白楊高等学校PTA・・・・・・・・・・・・ 15 ページ

令和4年度埼玉県高等学校PTA連合会 高校教育とPTA専門委員会研修会 次 第

日時 令和4年11月15日(火)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 9:30~10:00

【司会・進行】 埼玉県立北本高等学校PTA会長 大嶋 美江

1 開会のことば(10:00)

埼玉県立与野高等学校PTA会長 西田ひとみ

2 開会行事(10:00~10:10)

(1) 委員長あいさつ 埼玉県立久喜高等学校PTA会長 荻野久美子

(2) 指導講評者紹介 (司会)

(3) 発表者・校長の紹介 (司会)

3 研究協議(10:10~11:30)

(1) 実践発表 (各校20分)

東部支部 埼玉県立春日部東高等学校PTA会長 飯沼 玲美
【春日部東高校における高校教育とPTA】

西部支部 埼玉県立新座総合技術高等学校PTA会長 坂口 佳恵
【コロナ禍におけるPTA活動】

南 支部 埼玉県立与野高等学校PTA会長 西田ひとみ
校 長 鈴木 健
【「持続可能なPTA活動の模索」～コロナ禍を教訓として～】

北部支部 埼玉県立児玉白楊高等学校PTA会長 茂木 葉子
【新たな「高校教育とPTA」の在り方を模索して】

(2) 質疑応答

(3) 指導講評(11:40)

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課
社会教育主事兼指導主事 萩原 信和 様

4 情報提供

埼玉県高等等学校PTA連合会より 事務局長 島崎 育夫

5 閉会のことば(12:00)

川越市立川越高等学校PTA会長 目黒 道明

「高校教育とPTA」



埼玉県立 春日部東高等学校 文武両道

- 開校：昭和52年4月＝創立46年目の学校
(当時は東部地区で杉戸高校、白岡高校と合わせ3校の開校があった。)
- 平成6年4月に人文科が開設される
(今年で設置29年目になる。)
- 文武両道を実践

勉強に部活動に本気になれる場所



勉強と部活を高い次元で両立



現役進学 86.9%
国公立26名、早慶上理10名
G-MARCH70名
部活動加入率 87%(3学年4月時)

国公立大学＋早慶上理合格者は、勉強だけしていたのではない。

進学者のうち 88% 部活動をやり通す。

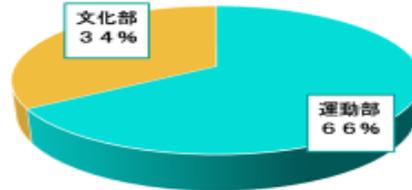
運動部 66% 文化部 34%が頑張っていた。

そして、国公立大学＋早慶上理＋G-MARCH
91% が部活動をやっていた。

3年間部活動を継続した生徒



継続者の部活動加入割合



部活動



主な実績

陸上競技部：インターハイ41年連続出場
 令和4年度女子400MH出場
 ソフトボール部：令和3年度インターハイ県予選ベスト4
 サッカー部：令和3年度高校選手権県予選ベスト16
 男子バスケットボール部：平成30年度関東大会出場
 男子卓球部：令和4年度個人インターハイ出場
 野球部：令和4年度春季埼玉県大会ベスト16
 柔道部：令和4年度関東大会県予選女子個人優勝
 吹奏楽部：令和4年度吹奏楽コンクール県大会銀賞



夏季補習
 3年生は25講座 延1100人受講

1. 2年生英語・国語・数学
 1年生延650人
 2年生延500人



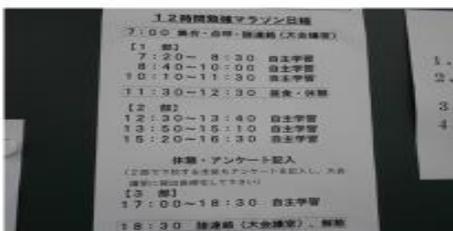
充実した図書館

通常の学校では2万冊

春日部東高校4万冊
 (PTA後援会の補助により)



放課後は廊下でも勉強
 2階に質問デスク
 2、3年生の廊下に学習デスク
 (PTA後援会の補助、卒業記念品で設置)
 勉強マラソン
 7:00~19:00まで勉強
 90人が学習できる机と椅子を購入



◎PTA後援会組織図



コロナ前 PTA・後援会 事業計画

学期	月日	春日部東高校PTA・後援会の活動	連合PTA等の活動
第一 学期	4/ 入学式	入会式・PTA新役員(1年)候補者選出	
	4/10過ぎ	各新旧支部会	
	4/中旬	PTA・後援会会計監査 第1回P・後常任理事会・理事会(新旧)	
	5/連休後	P・後總會 歓送迎会	
	5/下旬		埼高P連東部支部総会
	5/下旬	第2回P・後常任理事会・理事会	
	6/初旬	体育祭応援	
	6/中旬		埼高P連合会定期総会
	7/0～0		関東高P連大会
	7/中旬	広報誌『ひがし』発行(広報委員会)	
8/0～0		全国高P連大会	

第二 学期	8/下旬	第1回卒業準備委員会 第3回P・後常任理事会・理事会	
	9/文化祭	文化祭バザー参加(体育・文化委員会) 駐車場係(生活指導委員会)	
	9/下旬		埼高P連東部支部役員等研修会
	9/下旬	県外視察研修(企画運営委員会)	
	10/中旬	進路大学見学会(進路指導委員会)	
	10/	朝の登校視察(生活指導委員会)・地域安全懇談会	
	10/0～0		埼高P連東部支部役員等県外視察
	11/0 または11/0		埼高P連家庭教育専門委員会研修会
	10/下旬 または12/初旬	第2回卒業準備委員会 第4回P・後常任理事会・理事会	市内中・高PTA連絡協議会
	12/中旬	広報誌『ひがし』発行(広報委員会)	
第三 学期	1/		青少年健全育成地域の集い
	1/中旬	第3回卒業準備委員会	
	2/初旬	耐久レース応援(体育・文化委員会)	
	3/卒業式	広報誌『ひがし』発行(広報委員会) 3学年花束贈呈	
	3/中旬	第5回P・後常任理事会・理事会	

PTA・後援会バッジ



PTA・後援会入会式



PTA・後援会総会



卒業理事へ感謝状贈呈 →



総会実施日の5限の授業は「公開授業」となっています。
また、学校側より教育活動全般について「保護者アンケート」を実施しています。
保護者アンケートについては、6月の三者面談でフィードバックされます。



広報誌「ひがし」(年3回発行しています)



学校評価懇話会
2月

学校評議員、生徒代表
とともに、PTAの代表者
が参加して実施



卒業を祝う会
卒業式当日
花束贈呈

「学校教育とPTA」

- 保護者が学校教育に積極的に関わることで、子供たちの学ぶための大きな手助けになっている。
- 学校と関わりながら、学校に足を運び我が子を見て成長を感じ取ることができる。
- 保護者は学校と連携を取りその役割を果たしていかなければならない。
- PTA後援会と学校がお互いに理解し合い協力しあうことで信頼関係が構築され、学校と家庭の距離を縮めていくことが大切である。
- PTA後援会組織は、趣旨を会員に浸透させ連帯感を持つことが大切である。

コロナ禍におけるPTA活動

埼玉県立新座総合技術高等学校
PTA会長 坂口 佳恵

1 学校紹介

新座総合技術高等学校は昭和58年に、教育界はもとより産業界からも広く関心を寄せられる中、全国初の複合型の専門高等学校として開校されて以来、令和4年度で創立40周年を迎え、「新総（にいそう）」という愛称で親しまれています。

当時、時代を先取りした新しいタイプの高校として工業、商業、家庭、の三分野にわたって、電子機械科、情報技術科、デザイン科、総合ビジネス科、服飾デザイン科、食物調理科の6学科を設置して卒業生も1万人を超えました。

教育目標は、実践的な教育を通して個性を開発し「一人一人を生かす」とともに勤労及び協調の精神を培い、社会に貢献できる明るく健康的な人材を育成することを実践しております。



本校のような専門高校のカリキュラムは国語、数学のような普通科目と、それぞれ専門科目で構成されています。そして、新座総合技術高校のカリキュラムの特徴は他の学科の科目も選択できる「総合選択制」というシステムがあります。

そして1年次は、6つの学科の生徒が1つのクラスに集まったミックスホームルームで学び、学科を超えたかかわりの中でお互いを尊重し豊かな人間関係を築くことができます。2年次からはそれぞれの専門学科に分かれて学び、3年間の中で複数の資格を取得したり、コンテストに参加することで経験値を上げていくこともできます。

簡単に各学科を紹介します。電子機械科では、電子技術、機械技術、情報技術の三分野が融合したメカトロニクスを学びます。簡単に言うと自動制御技術やロボットの技術です。次に、情報技術科ではコンピュータの仕組み全般について学びます。ハードウェアの電気回路やIC、マイコン制御、ネットワークシステムの構築やソフトウェア開発の技術を学びます。次にデザイン科の授業では様々な制作活動を行っています。それらを通して身につく力は、計画力や、発想力（考える力）、表現力（創る力）、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、これらの力を身につけ将来の生活や仕事の様々な場面で活躍できる人財を育てます。次に総合ビジネス科では、会計コースと創造コースがあり、会計コースは会計分野を中心に学習し、税理士、公認会計士となる人材の育成

を目指します。創造コースはマーケティング分野を中心に学習し、地元企業とのコラボレーションのも魅力の一つです。次に服飾デザイン科は服のデザインを描き、それを実際に服にするとところまで、基礎から丁寧に指導しています。コーディネートやプリントデザイン、染色やドレス作りなど、本校独自で展開している授業がたくさんあり、発表作品の場として年2回ファッションショーを行っており、高いコミュニケーション能力を身につけることができます。最後に、食物調理科では日本料理、中華料理、フランス料理、イタリア料理をはじめ、製パン、和菓子、テーブルマナーやフラワーアレンジメントに至るまで現場豊かなプロが徹底指導。校外学習では一流レストランや割烹での試食や市場見学を実施し、幅広く食の知識を習得します。卒業後には調理師免許を取得することができます。

これら6学科で自分の好きなこと、極めたいことをプロから教わることもできる魅力的な学校で、一人一人が自分の夢に向かって経験値を積み重ねることのできる学校です。



本校服飾デザイン科 こぶし祭でのファッションショー

2 PTA活動の概要



各部の活動内容

定期総会での記念写真

本校のPTAは、本部、厚生部、広報部、指導部、総務部で活動をしています。新型コロナウイルス感染症拡大前、本校のPTA活動は、他の高校と比較して盛大に盛り上がっている状況でした。しかし、各部の仕事の負担が大きかったり、各部の仕事の不平等なども生じ問題となっていました。約2年半前新型コロナウイルス感染症拡大のため、生徒の自宅待機。当然PTA活動も停止状態となりました。このような状況の中、「何も出来ない、何もしない」。ではなく、「ピンチをチャンスに」、ということで、PTA活動の見直しを議論していくことになりました。各部の活動内容を精査し、必要な部分、簡素

化出来るものを整理し、改善、改革を図るようにしました。以下改善したところを紹介しします。

- (1) 役員会・理事会の案内を、生徒を通じて配布していた封筒をやめ、PTAの一斉メールに変更しました。このことによって、封筒を配布していた時より、確実に保護者に伝わることや、渉外部の先生の負担も減るというメリットがありました。
- (2) 各部の仕事内容を精査し、他の部で出来るような事は他で分担し仕事の均等化を図りました。本校の歓送迎会は100名を超える参加の盛大なものですが、コロナ禍において実施は出来なくなっています。各部の主な活動です。
 厚生部 PTA・後援会歓送迎会の企画、制服のリユース販売
 広報部 広報誌「こぶし」の取材・発行
 総務部 中庭整備
 指導部 開放講座、進路研修の企画
- (3) 新理事の勧誘人数の削減。各部、各学科で1名としました。最盛期は理事の総数は100名以上でしたが、このことで、役員・理事の数は100名以下となります。
- (4) 役員会、部会等の来校者の人数の把握を徹底し、PTA独自の「健康チェックシート」を考案、簡便に所属（本部、厚生部、広報部、指導部、総務部、後援会）や学年などで紐づけするようにし、万が一、感染者が出た場合の想定をしました。感染対策を徹底しました。（現在まで、PTA活動にて感染した事例はない）
- (5) 各理事間の連絡手段としてLINEを活用しました。会長から各部長、各部内への連絡や意見の収集などに活用しました。理事会中止の時などに大変役立ちました。
- (6) PTA活動の精査のポイントは「あくまで、PTA活動は、生徒や学校のサポーターに徹すること」との共通認識を持ち、「役員・理事が無理をしない。強制しない。楽しく参加できるように。」を基本に考えています。
- (7) 学年の懇親会は中止し、その代替としてPTA活動で使用する学校名入りの文房具や資料入れバッグを親睦のツールのきっかけとして購入することとして結束を高めました。

【埼玉県立新産総合技術高等学校 PTA・後援会】

年 月 日	
健康チェックシート	
本健康チェックシートは、本校が開催する事業において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。 本健康チェックシートに記入していただいた個人情報については、参加者の健康状態の把握、実施可否の判断及び必要な連絡のみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除き、本人の同意を問わず第三者に提供いたしません。但し、本校において感染者またはその疑いがある方が発見された場合には、必要な範囲で保健所等に提供することがあります。	
基本情報	
所 属	本部 厚生部 広報部 指導部 総務部 後援会 1年 2年 3年 卒業 該当するところに○をつけてください。
氏 名	
当日の体温	_____ 度 _____ 分
前2週間における健康状態	
(1) 平熱を超える発熱がない。 (2) 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状がない。 (3) だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がない。 (4) 嗅覚や味覚の異常がない。 (5) 体が重く感じる、疲れやすい等がない。 (6) 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がない。 (7) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない。 (8) 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触がない。	
※ (1)～(8)まですべて該当しましたら「✓」を記入してください。	
※ 本チェックシートは、2か月保管後、本校が責任をもって処分します。御協力ありがとうございます。	



進学のためのマナー講座

3 今年度のPTA活動

厚生部 人数を制限した総会の中で、歓送迎会の代替えとしてクイズ大会（「本校の6学科の実習服を当てる」や本校のイメージキャラクターについての詳細）を開催し、飲み会のような懇親会でなくても懇親が図れるような工夫をしました。

指導部 コロナ禍で不況になっている現在だからこそ、家庭の家計がしっかりと運営できるようにPTA対象の開放講座ではマネープラン講座を開催し、保護者として、子供の進学費用について、どのように対応していかなければならないかを学んでいく機会を設けていきました。

総務部 中庭整備、花の植え替えや除草など行っています。

広報部 広報誌「こぶし」116号の発行。コロナ禍で行事の少ない中、以前の充実した内容を継続し発行することができました。数年前より、デザイン科卒業で現在デザイナーとして活躍している方の協力を得て制作しています。

また、3年ぶりのリアル開催のこぶし祭では、以前の、手作り作品の販売、おだんごやクッキー、農協から仕入れた野菜などの販売、的当てなどのゲーム、スライム作り、制服のリユース販売など盛大に行っていたことが、既に経験者が居なかったり、大人数が集まらなかったりで、本年度は、大会議室をお借りして、人数制限をして、PTA各部の活動報告として写真などを展示しました。少しでもPTA活動を理解して頂ければとの思いが少しは伝わった気がします。



総会でのクイズ大会



こぶし祭でのPTA展示



PTAポロシャツ



広報誌「こぶし」

4 終わりに

新型コロナウイルス感染症の拡大は、学校教育活動のスクラップ&ビルドを一気に加速させました。それはPTA活動も例外ではありませんでした。

しかし、組織改編や従前のお仕事で飽和していたことについて、真剣に向き合い、前例踏襲を当たり前としない活動に生まれ変わっています。

今後、この「ウイズ・コロナ」の時代から「アフター・コロナ」となったとしても、この3年間の改革が「良い改革であった。」とか「PTA活動は一部の熱心な保護者の活動ではなく、誰もが気軽に自分の子供や学校の生徒さんを応援できる活動だ。」と思えるように取り組んでまいりたいと思います。

高校教育と PTA

「持続可能な PTA 活動の模索」～コロナ禍を教訓として～

埼玉県立与野高等学校 PTA 会長 西田 ひとみ

1. 与野高等学校の概要

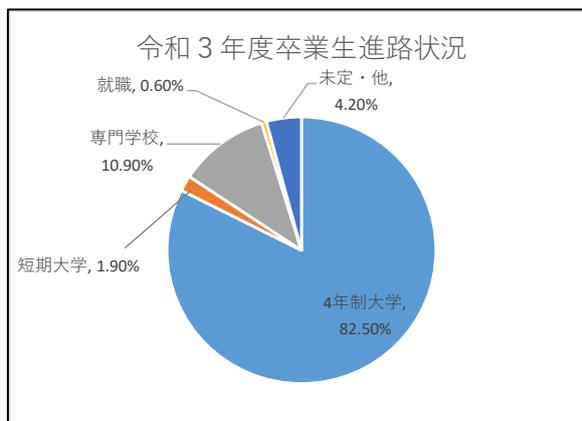
埼玉県立与野高等学校は、昭和3（1928年）年に周辺7町村（与野町、木崎町、六辻町、土合町、大久保村、植水村、三橋村）により、学校組合立与野農学校として設立されました。以来、定時制課程、園芸科や商業科、理数コース等の設置・廃止など時代や地域社会の要請に応える様々な再編を経て、平成26（2014）年から、全日制普通科の単課程・単学科の高校となりました。現在の学校規模は、各学年9学級、生徒数1070名（令和4年5月1日現在）となっています。



本校は、古代・中世から鎌倉街道「羽根倉道」の立場（宿場）として発展した与野本町（さいたま市中央区本町西）にあります。埼京線の与野本町駅から歩いて10分という便利な場所でありながら、近隣には宿場町の雰囲気伝える蔵造の商家、今年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも登場した畠山重忠ゆかりの神社仏閣も点在する閑静で絶好の学習環境となっています。（写真は与野公園・弁天池）

本校の掲げるモットーは「二兎を追い、獲得する」です。このモットーの下、確かな学力を身につけ進路希望を実現することと、部活動や生徒会活動等により充実した高校生活を楽しみ豊かな人間性を養うことを目標とし日々の教育活動を進めています。

卒業生の進路はほとんどが上級学校への進学ですが、毎年若干名の生徒は地方自治体や鉄道会社等へ就職しています。現役進学率は非常に高く、昨年度は95%、受験形態別の内訳は、一般入試と推薦・総合入試の比率がほぼ半々でした。かつては公立高校の進路指導というと、一般入試で最後まで粘ることで国公立大学の合格を目指す、というのが定番でしたが、私立大学を中心に定員のうちかなりの数が、推薦・総合系に割り振られるようになってきている現在、本人の志望や適性などに応じて、最適な入試形態を選べるように指導することが、重要になってきています。



部活動加入率は非常に高く、運動部では弓道部、フェンシング部などが関東大会や全国大会に度々出場していますし、文化部でもバトン部、科学研究部、吹奏楽部などが各種の大会やコンクールで活躍しています。生徒会活動も活発で、運動会や文化祭などの行事は生徒が主体となって運営されています。

2、与野高校 PTA の概要

本校の PTA は会長等の役員によって構成される執行部のもとに総務部、広報部、生活・文化部、進路部の 4 つの専門部があります。役員や理事は入学年度ごとに入学説明会の時に選出しますが、例年ほぼすべての役職が立候補により選出されており、意欲的に活動が行われています。年間の主な行事は下表のとおりです。

月	行事	令和 2 年度の対応	令和 3 年度の対応
4 月	会計監査 PTA・後援会合同理事会	実施 中止	実施 GoogleMeet による分散
5 月	PTA・後援会合同総会 PTA・後援会歓送迎会	紙上開催 中止	GoogleMeet による分散 計画せず。
6 月	体育祭 運営委員会（第 1 回）	中止 中止	一部役員、広報部のみ参加 実施
7 月	大学見学会 「PTA だより」発行	中止 発行	Web によるオンライン 発行
8 月	運営委員会（第 2 回）	中止	中止
9 月	文化祭（PTA 企画）	中止	中止
10 月	PTA 主催講演会（生徒対象）	中止	3 年のみ体育館、1・2 年は 教室でリモート参加
11 月	マラソン大会（運営協力）	中止	実施
12 月	運営委員会（第 3 回）	実施	実施
1 月	PTA 後援会合同理事会	紙上開催	紙上開催
3 月	「PTA だより」発行 卒業式・感謝の集い 役員・新理事選出	発行 「集い」は中止 実施	発行 「集い」は中止 実施

3、新型コロナウイルス流行下における P T A 活動

(1) 壊滅的だった令和 2（2020）年度

ご存じの通り、新型コロナウイルスが中国で流行しているとの報道があったのは、令和元（2019）年の年末でした。令和 2（2020）年に入ると、日本においても感染が報告され大

混乱が始まりました。学校現場でも、3月からの数カ月に及ぶ突然の学校閉鎖をはじめとし、ほとんどの行事が中止または延期という異常な1年間になりました。PTA活動も上の表で示した通り、最低限の事を除けば事実上の休止状態でした。

(2) 復活を模索した令和3(2021)年度

令和3(2021)年度に入ると、新型コロナウイルスをめぐる混乱は早急には收拾されないことが明らかになってきました。しかし、PTA活動をいつまでも休んではいられません。この年は、コロナ禍の下でもできること、やれることを模索する一年になりました。

まず4月のPTA・後援会合同理事会では、密を避けるため会場を2つに分けての分散



開催を試みました。電子会議アプリケーション(Google Meet)を使い、2つの会場で互いに別会場の動画や音声を視聴できるようにして議事を進行しました。途中、多少音声が途切れたり、ハウリングが起きたりする問題はありましたが、十分実用に耐える方法であるという手ごたえを得ました。5月のPTA・後援会合同総会(写真)ではこの時の経験と反省を踏まえ、より円滑に会議を行うことができました。

例年7月の大学見学会は、例年バスツアーとして行っていましたが、Web見学会として復活しました。各大学と本校をインターネットでつなぎ、大学の担当者からの説明を受けたり、質疑応答を行ったりしました。Web形式では、自分の足で大学のキャンパスや校舎の中を歩き回ることが出来ないもどかしさがありますが、バスツアーよりも多くの方に参加していただくことができ、全体としては好評でした。

9月の文化祭は折からの第5波の感染拡大により直前に中止となりました。2年ぶりの開催に向け準備を進めていたので大変残念でしたが、やむを得ぬことであったと思います。

10月のPTA主催講演会も、3年生は体育館で直接参加、1・2年生は教室で動画をプロジェクターで視聴するリモート参加で行いました。これは密を避けるためでしたが、講師にお招きした唸家の三遊亭楽生師匠はこれを逆手に取り、通常より会場がゆったり使える利点を生かしてワークショップ方式での話し方教室を工夫してくださいました。講師の話をただ聞くのではない実践的な教室は生徒にとっても好評でした。

11月のマラソン大会は、第5波と第6波の合間の比較的静穏な時期であったため、無事開催することが出来ました。マラソン大会では給水などの運営協力を行うため、さすがにオンラインというわけにはいきませんでした。広大な埼玉スタジアム周辺で行うリアルな活動には、久しぶりの開放感がありました。

令和3年度は紆余曲折を経ながらも、PTA活動の復活・継続のための努力が続けられた1年でした。

4、ICTの有効性

以上述べてきたPTA活動継続の試みですが、これが可能となった背景にはコロナ禍を受けて急速に進められた学校ICTの整備の恩恵が大きかったと思います。

コロナ禍以前には学校により差異はありましたが、校内LANは有線のみ、コンピュータが常時使えるのは職員室とコンピュータ教室だけ、Webカメラもなく回線の容量・速度から画像配信などは使えないという学校が少なくなかったと思います。

ところがコロナ禍によりオンライン授業等の要請が高まったことから、埼玉県では県教育委員会により、全校にBYOD（持ち込み端末）用の無線LANが整備されました。またネットワーク接続を前提としたクロームブック等の端末の配置や、各教室でスクリーンに画像投影できるプロジェクターの整備も進みました。さらにZoomやGoogle Meetのようなビデオ会議システムやGoogle Driveのようなクラウドストレージも、安価または無料で提供されています。

今や、これらの学校の機材を借用すれば、ほとんどコストをかけることなく、動画配信やビデオ会議のシステムを構築できます。あと追加するとすれば、ノートPCやタブレットに内蔵されたカメラやマイクでは物足りない画質・音質を補うためのビデオカメラや指向性マイク程度だと思います。もう少し投資して、ビデオ会議の有料アカウントを取得すれば、録画・録音や投票などの機能をさらに充実させることも可能です。

5、終わりに「持続可能なPTA活動へ」

コロナウイルス騒動も3年目の今年度は、コロナウイルスのある日常がすっかり定着してきました。本校のPTA活動も昨年度の経験を活かし、より洗練されたものになりつつあります。5月のPTA・後援会合同総会は昨年度と同様の分散会場方式で行いましたが、8月の第2回運営理事会からはWeb観覧・参加を導入しました。また広報誌の編集も従来の割付用紙や紙原稿を持って学校に集まる方式ではなく、アプリケーションやファイル共有を活用して、家にいながら編集作業を進められるように改善を進めています。

現在、コロナウイルスそのものにもようやく終息の気配が見え始めていますが、コロナ禍の下で得られたこれらのノウハウは、コロナ後の活動にも生かせると考えています。

保護者のみなさんの中には、PTA活動に関心があっても仕事がなかなか休めない、育児や介護のために時間が自由に使えないなどの理由で、参加をためらっている方も少なくないと思います。コロナ下で始まったオンライン会議などの工夫は単に感染予防対策というのではなく、活動参加へのハードルを下げることに繋がります。PTA活動の中にはどうしてもリアルな参加が必要なものもあり、直接顔を合わせることで深まる絆もあります。しかしリアルとオンラインやリモートを使い分け、メリハリのある活動をすることで、より多くの保護者が、より気軽に、無理なく参加できる「持続可能なPTA活動」を構築できるのではないのでしょうか。古来「禍福はあぎなえる縄のごとし」と言いますが、降ってわいたコロナウイルスという禍を、活力あるPTA活動という福につなげていきたいものです。

新たな「高校教育とPTA」の在り方を模索して

埼玉県立児玉白楊高等学校

PTA会長 茂木 葉子



児玉白楊高校
マスコット「ポプラン」

1 はじめに

本校は、明治17年に木村九蔵先生が競進社養蚕伝習所を設置し、翌18年より生徒の入所を受け入れ、養蚕技術の教育を施したのを契機にその後養蚕業講究所を経て、明治32年(1899年)10月31日に「競進社蚕業学校」として開校しました。その後、幾多の校名変更や学科転換を経て、平成7年4月には校名を「埼玉県立児玉白楊高等学校」と改名し現在に至る、創立123年の伝統を誇る専門学科高校です。創立以来「なすことによって学ぶ」を校訓として、時代の変化に対応した「ものづくり」の専門技術教育をすすめ、地域産業の「未来を担う心豊かな産業人の育成」に取り組み貢献してきました。



創立123年の伝統を誇る児玉白楊高等学校

そして、来年度からは県立児玉高等学校と統合し、普通科と農業科・工業科を併せ持つ県内初の高校、「新生・児玉高等学校」として再スタートいたします。今年度は開校に向けた最終年度として学校及びPTA・後援会でその準備を余念なく進めているところです。

2 本校の特色

本校には、農業科の生物資源科、環境デザイン科、そして、工業科の機械科、電子機械科の4学科があり、「目指す学校像」に「母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校」を掲げ、専門的な職業教育を日々展開しています。

(1) 伝統に裏打ちされた進路実績

令和3年度卒業生の進路状況は、就職65.7%、大学・短大進学7.5%、専門学校進学25.4%でした。就職については、ここ数年内定率100%の実績を誇っています。これは、123年の伝統に裏打ちされた信頼の証だと思っています。つまり、多くの同窓生がこの地域を支えており、後輩たちを暖かく迎えてくれるからなのです。

(2) 専門学科のストロングポイント

就職に強いのは、専門学科の強みである各種検定・資格取得に力を入れていることも重要なポイントです。多くの生徒が、本校のこのストロングポイントを生かして、次のような様々な検定や資格取得に励んでいます。

・大型特殊免許・色彩検定・簿記検定・日本語ワープロ検定・食物調理検定・農業技術検定・造園技能検定・電子機器組み立て技能検定・普通旋盤技能検定・機械検査技能検定・アーク溶接技能講習・ガス溶接技能講習・小型フォークリフト特別教育講習・小型車両系建設機械特別教育講習・危険物取扱者乙種・第二種電気工事士・初級CAD検定・情報処理検定・計算技術検定・情報技術検定・基礎製図検定・トレース技能検定・品質管理検定・ICTプロフィシエンシー検定(P検)



専門学科のストロングポイント 検定・資格取得

(3) 地域との連携

本校の特色の一つに「地域との連携」があります。「児玉商工まつり」、「神川コスモスまつり」、「上里ふれあいまつり」など、各自治体からイベントへの参加依頼があり、各学科で積極的に関わり、地域に貢献しております。また、本校の特色を生かして「動物とのふれあい体験」や近隣の公共施設を飾花する「花いっぱい活動」などを行ってきました。30年近く継続してきた「花いっぱい活動」については、長年にわたる地域貢献が認められ、平成28年度「シラコバト賞(県知事賞)」を受賞しました。

(4) 親子おもしろ体験講座

また、本校の教育財産を活用し、専門高校の魅力を地域へ発信するため、例年12月、小学生・保護者を対象に「親子おもしろ体験講座」を実施しています。各学科の特長を生かしたものづくりを行います。昨年度は、身近な植物を利用した飾り「スワッグ作り」、針金を加工した「ネームプレート作り」、電子部品をはんだ付けして、メロディに合わせてLEDが光る「ミニクリスマスツリー作り」などを行いました。地域の子供たちから大人気で、毎年申込みがすぐにいっぱいになってしまうほどです。



小学生に大人気の「ミニクリスマスツリー」

3 本校のPTA・後援会組織と活動概要

本校のPTA・後援会組織は、PTA会長1名、副会長4名、監事2名、後援会長1名、副会長4名、監事2名の本部役員と児玉、東部(美里、寄居、深谷)、本庄、上里、神川(神川、群馬県)の5支部で構成され、各支部より選出された理事により総会及び年4回の理事会にて必要事項を協議・共有しながら運営しています。

さらに、各理事は広報、研修、スポーツ、生活、学年の5部門の専門委員会に分かれ、それぞれ次のような活動を行っています。

○広報委員会(10人程度)

- ・広報誌「ポプラ」の発行(年2回)

○研修委員会(10人程度)

- ・親睦や研修を目的に研修旅行(6月下旬)

○スポーツ委員会(30人程度)

- ・支部別ソフトバレーボール大会(7月頃)

○生活委員会(10人程度)

- ・朝の登校指導への参加(年3回)

○学年委員会(12人程度)

- ・卒業式受付



PTA生活委員会による登校指導(声掛け運動)

ただし、令和2年度からはコロナ禍の影響でPTA活動が思うようにできず、現任のPTA会長としては歯がゆい思いです。令和2年度、3年度は親睦の目的で行っている研修旅行や支部別ソフトバレーボール大会は、中止にせざるを得ませんでした。これらの活動が中止になったことで、会員同士のコミュニケーションが減り、以前のような活気は薄れてしまいました。本校PTA・後援会のように、このような課題を抱えた学校も少なくないのではないのでしょうか。

4 児玉新校開校に向けたPTAの取組

コロナ禍で思うようにPTA活動ができない中、児玉高校と児玉白楊高校の統合による児玉新校の開校準備は、教育課程、進路指導、生徒指導など、様々な分野について両校のすり合わせが行われました。PTA組織や活動についても例外ではありません。両校とも今までそれぞれの組織で違ったPTA活動を行っていた訳ですが、来年度からは一つの組織として活動していかなければなりません。両校の渉外担当の先生方にサポートいただきながら、本部役員同士で話し合いを行い、

次年度からは現・児玉白楊高校の組織体制に統一することとなりました。

(1) 両校PTAの交流

新校PTAの組織体制について、事前に検討しておくことは当然必要ですが、それだけで上手くいく訳ではありません。両校のPTA同士がお互いを知り、認め合ってこそ新校のPTAにスムーズに移行できるのだと思います。その意味で、今年度は両校の交流ということ意識しました。

ア 2校合同サプライズPTA研修旅行

6月25日(土)、コロナ禍で中止になっていたPTA研修旅行を3年ぶりに復活させ、信州善行寺をめぐる日帰りバス研修旅行を感染防止対策を徹底した上で敢行しました。お互いの参加者は、合同の研修旅行であることを知らずに、それぞれ学校をバスで別々に出発し、上信越自動車道の最初の休憩場所の東部湯の丸S.A.で落ち合うというサプライズありの研修旅行でした。新校開校の前年に2校合同PTA研修旅行でお互いに交流できたことは、大変意義深いと思っています。



2校合同サプライズ PTA 研修旅行

イ ソフトバレーボール大会合同練習会

夏休み中8月27日(土)に「PTA・後援会支部親善ソフトバレーボール大会」も3年ぶりに復活し、児玉高校と児玉白楊高校の合同で開催することとしました。事前の練習会も合同で計画し、7月8日(金)、児玉白楊高校体育館で合同練習会を実現することができました。その後、全国及び県内の感染が拡大したので、大会自体は中止としましたが、1回でも合同練習会ができたことで、両校のPTAは2校合同研修旅行のときより更に親密になれたと思います。



ソフトバレーボール2校合同練習会

5 「高校教育とPTA」と地域課題探究

先ほどから述べているとおり、コロナ禍の影響で従来のPTA活動が思いどおりにできなくなりました。従来は、ポプラ祭、体育祭、ロードレース大会など、各種学校行事についても、PTAが関わりながら実施しておりました。しかし、それらの学校行事自体も中止となったり、実施であったとしても生徒のみの実施であったりと、例年のPTA活動がうまく実施できない状況になってしまいました。そんな中、何か工夫してできることはないかと学校と本部役員で意見を出し合い、考えてみました。その中で出された意見から、次のことに取り組みました。

(1) PTAおもしろ体験講座

本校の既存の取組である「親子おもしろ体験講座」にPTAも参加・体験してみたいという意見を基に、PTAとのコラボ企画として、昨年12月4日(土)、「PTAおもしろ体験講座」を実施しました。これは、保護者として専門学科で学んできた子供たちの成長した姿を見てみたい、そしてPTAも楽しみたいという意見を形にした取組です。



先生役の電子機械科の生徒のみなさん

もともと「親子おもしろ体験講座」は、生徒たちが専門学科で学んだ知識・技術を基に、小学生と保護者に対して先生役となって教えるという取組です。今回は本部役員などが生徒たちのアドバイスを受けながら電子部品をはんだ付けで組み上げ、電子オルゴールとともにLEDが光る「ミニ・クリスマスツリー作り」にチャレンジしました。地域の小学生が楽しみにしているイベントをPTAも体験させてもらい、専門学科である本校の魅力を十分に実感することができました。また、教えてくれた生徒のみなさんがたくましくも見えました。

この取組は、コロナ禍の単発で小さな事例ではありましたが、高校の教育活動の中身を知ることができる有意義な取組となりました。一般的な公開授業の参観とは違って、双方ともに主体的・対話的であって、何よりも双方ともに楽しい取組でした。「高校教育とPTA」の新たな一つの事例になり得たのではないかと考えています。

(2) 地域課題探究「こだま学」

児玉新校説明スライド

児玉新校の資料に以下のような説明があります。

「予測不可能な時代」と言われる現代、未来を生きる子供たちには、課題解決能力が必要とされています。その教材として1番なのが、地域社会を取り巻く様々な課題です。

これからの学校は、この地域課題を取り込んだ「課題解決型学習」を進めて行く必要があるのです。それが地域学である「こだま学」です。この児玉には、歴史・文化、そして郷土の偉人など、教材となりうる要素がたくさんあります。これらを「こだま学」として学ぶことで、地域への愛着・

誇りを育み、それが地域課題解決、更には学習へのモチベーションと繋がっていくのです。

(「児玉新校説明資料」引用)

これは、児玉新校で行う地域課題探究「こだま学」について本校校長が述べたものです。校長は、この地域課題探究「こだま学」を実践していくには、PTAの役割がとても重要だと言います。地域課題を高校教育に取り入れていくためには、地域に根差し、地域に強いパイプを持つPTAが、学校と地域を結ぶコーディネーター役として必要であるというのです。

従来のPTAの役割は、学校行事のサポート役が定番だったわけですが、今後は、もう一步踏み込んだ「連携・協働」が重要になってくるのです。児玉新校は、地域とのパイプ役というPTAの新たな役割を示しました。多少不安もありますが、これから更に楽しくなりそうな予感がします。

6 おわりに

平成29年度、本校PTA・後援会は先輩方により「家庭教育とPTA」の分野で、全国高P連で発表させていただく機会がありました。その発表の最後の部分で「目まぐるしく変化するこれからの時代に私たちPTAは子供たちに何ができるのか」と自問自答し、具体的に私たちにできることとして次の3点を提示しています。1点目は「見守り」、2点目は「声掛け」、3点目は「学校との協働」でした。くしくも、この3点目を当時から示していたことに、諸先輩方のPTA活動に対する「真摯さ」を感じます。

ここ数年のコロナ禍により、本校のPTA活動は停滞しました。PTAがサポートすべき学校行事が中止になり、また、PTAの親睦自体も難しい状況になった訳です。そんな中、この発表の機会の後押しもあり「高校教育とPTA」を模索してみました。高校で学びながら子供たちが成長していってくれることは、親にとってとてもうれしいことです。PTAは、それを少しでも支援できればいいのだと思います。しかし、今まで通りではなく視点を変えると、まだまだ面白いことがいろいろできるのかなと思います。先輩方が示してくれた「学校との協働」をキーワードに今後も引き続き「新生・児玉高等学校」をしっかりと、そして楽しく支援して参りたいと思います。